

## 記事 ○ 講演メモ 「ソウル地下鉄9号線におけるPFI事業の現状と課題」

### 駅は無人！ ソウル地下鉄9号線

当協会理事長が、去る2月28日、一般財団法人運輸政策研究機構・運輸政策研究所が開催した「ソウル地下鉄9号線におけるPFI事業の現状と課題」と題する講演会に出席しました。講演者は、韓国国立交通研究院の金敬喆（Kim Gyeng-Chul）院長でした。この講演の中で、興味深いと思われた点を以下にご紹介します。なお、本稿は、スライドを使った講演の聞き書きであり、必ずしも正確ではないことをお許し下さい。

#### 【講演要旨(抜粋)】

ソウルには、現在10本の地下鉄があります。1974年から1984年までに市営の1～4号線が開業しました。その後、1996年から2000年に開業する5～8号線の経営主体を巡って論争が行われました。効率性の観点から、1～4号線と同じ主体が経営すべきとの論と、別の経営主体を作り、競争させてサービスの改善を図るべきとの論でした。結果は、1～4号線でストが頻発していたことから、後者の論が採用されました。しかし、5～8号線も経営主体が市営と大して変わらないものだったので、両者間に競争は起きませんでした。

そこで、2009年に開業する9号線では、大胆に民営化を行い、それによる経営合理化の成果を1～4号線と5～8号線に及ぼそう考えました。土地の取得とトンネルの掘削はソウル市が行うものの、軌道、車両、駅舎等の施設は、車両メーカーや銀行など13の民間会社が出資する施設会社（Seoul Metro Line 9）が建設・所有し、投下資本は、運賃収入をもって回収します。また、この施設会社とは別に民営の運営会社を作り、運営会社は、電車の運行、駅務、運賃の收受、車両の日常点検を施設会社から委託を受けて行います。運賃収入は、運営会社が收受しますが、施設会社の収入となり、その代わり施設会社は、運営会社に委託料を払うという仕組みです。

運営会社は、全世界に公募した結果、香港の地下鉄公社（MRT）とフランスの世界的交通コングロマリットのVeoliaから応募がありました。MRTの提案は、駅の周辺開発により地下鉄の収支を改善することにウエイトがあり、Veoliaの提案は、運営の合理化によりコストの削減を図ろうとするものでした。我々の期待を満たすのは、Veoliaであったので、Veoliaが8割出資する会社を作り、これを運営会社（Seoul Line 9）としました。

その結果、次のような考えもしなかったことが起きました。

- ① 駅長がいなくなりました。

- ② 駅員もいなくなり、駅の駅務室も無くなりました。駅の管理業務は、巡回班が行います。
- ③ 駅には、天井まで届くホームゲートが設置され、ゲートは、広告スペースともなりました。
- ④ 切符の販売や改札は、どうするのかって？。紙の切符を全廃し、カードによる自動改札にしました。そのカードは、駅員ではなく、駅にあるコンビニで売ります。（筆者注：ソウルでは、集札が行われていないらしい。）
- ⑤ 宿直を廃止しました。
- ⑥ 電車には、運転手1人が乗るだけです。近い将来、運転手も無くします。
- ⑦ 運転手の1日の運転時間が他路線では4～5時間なのが7時間になりました。
- ⑧ 1人が複数の職種をこなし、運転手も他の仕事を受け持ちます。

こうしたことは、当然、1～4号線、5～8号線にインパクトを与えます。紙の切符の廃止は、他路線でも採用され、ワンマン運転は、他の一部の路線に波及しました。この結果、営業1キロメートル当たりの職員数は、次のように変化しました。

9号線            約30人  
 1～4号線    100人 → 80人 → 75人  
 5～8号線     70人 → 55人 → 45人

また、ストライキも減りました。

ソウル市にとって、地下鉄の赤字補てんは、財政赤字の大きな要因でしたが、9号線は、建設当初の計画通りの経営成績を収めており、市の財政問題の解決の光明となっています。

なお、2011年に開業した10路線目の新盆唐線（Shinbundang line）は、無人運転です。

**【質疑応答(抜粋)】**

出席者：駅員がいないと、駅の火災の場合に、利用客の避難誘導ができないのではないか。

院長：駅長がいなかったために火災が起きたという話は聞いたことがない。駅には、監視カメラが設置されており、中央制御室で全駅を常時監視している。

（筆者注：院長は、かつて運営会社のCEOに就いており、この会社を自負している。）

筆者：当協会理事長 武林

平成25年度「児童福祉週間」の標語 ; 入選作品

えがおはね みんながもってる 金メダル (奥田 貴俊さん 8歳 兵庫県)

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先： [mukaida@jametro.or.jp](mailto:mukaida@jametro.or.jp)